



あやめ池神社

近鉄菖蒲池駅の南側、日本最古のダム（ため池）「蛙股池」の水辺に位置する神社です。

神社は直接のルーツとしては、江戸時代の元禄期に菅原道真ゆかりの「菅原天満宮」の境内社として祀られた社をルーツとしており、その後江戸時代の終わりにこの地に遷座したとされています。一方で、この地には元より弁財天の小さな祠があり、この大きな蛙股池の守護神として信仰されていたともされ、この神社もそれを受け継ぐような形となっています。

ご祭神としては市杵嶋姫命（弁財天）・野見宿禰命・菅原道真公をお祀りしています。

菖蒲池神社の祭神 市杵嶋姫命（弁財天）、野見宿禰命、菅原道真公を祀る。

市杵嶋姫命

市杵嶋姫命は、本来は航海安全の神として玄界灘や瀬戸内海に祀られる海の神であるが、本地垂迹説により弁財天と習合した。当社はもともと弁財天が祀られる弁天社だったが、幕末から明治

にかけての神仏分離・廃仏毀釈の影響で、弁財天から市杵嶋姫命に神名を変えたということになろう。弁財天は、弁才の神、音楽の神、財福の神、知恵の神、延寿の神というご神徳を持つという。

野見宿禰命

菅原氏の遠祖。11代垂仁天皇の御代に、天皇などの崩御に際して殉死する慣習をやめて、そのかわりに埴輪を埋めることを提案した人。その功績により土師氏という姓を賜り、古墳造営や葬儀一切を取り仕切る氏族となった。古墳時代には、河内の土師ノ里を本拠とし、百舌鳥・古市の古墳を造営した。奈良時代になると、土師氏は奈良市菅原町あたりに本拠を移した。古墳時代の終焉を迎えた土師氏は、道真公の曾祖父である土師古人が改姓を願い出て菅原氏に改姓したという。

菅原道真公

全国の大湍宮に祀られる、平安時代の政治家。右近衛大将と右大臣を務めた。左大臣だった藤原時平の讒言によって、道真公は太宰権帥（太宰府の副長官）に左遷される。そして、そのわずか2年後、太宰府にて死去。死去の直前、天拝山で無実の罪を天に訴えたところ「大湍大自在天神」と書かれたお札が降ってきたという。（これが大湍宮の由来。）道真公死去のあと様々な厄災が宮中に起こった。清涼殿への落雷で多くの死傷者が出たり、左遷を決めた醍醐天皇が病死したり、道真公の後任の右近衛大将が謎の死を遂げたり、讒言した時平が急死したり、道真公の後任の従二位の源光が鷹狩中に行方不明になったり、これらの厄災は道真公の祟りであろうと判断した調停は、祟り鎮めのために道真公を神として祀ることにしたのが大湍宮であり天神信仰の始

まりといわれています。奈良市菅原町に菅原天満宮がある。道真公の母親が出産の為に、平安京から当地に帰って道真公を生んだと伝わる。菖蒲池神社は、その菅原天満宮の境外摂社です。

菖蒲池神社のご利益

弁財天のご神徳により、弁財上達、芸能上達、金運向上、学問向上、延命長寿のご利益。

野見宿禰命からは、野見宿禰は相撲が強かったということでスポーツ向上のご利益。

道真公からは、学力向上、合格成就。弓矢の名手だったことでスポーツ向上のご利益

番外編；蛙股とは



横木（梁・桁）に設置し、荷重を分散して支えるために、下側が広がっている部材です。そのシルエットが蛙の股の様に見えることから「蟾股」と呼ばれるようになりました。本来は屋根からくる荷重を支える部材の一つでしたが、平安時代後期以降は装飾材としての役割が重視されていきました。そのため装飾様式で、奈良時代、平安時代、安土桃山時代、そして江戸時代と、建物の建立時代を判定できる部材の一つです。

ミニ地元情報 ・お祭りやお掃除などの管理は「奉賛会」の有志の皆さんでされている。

・菅原神社の宮司さんが兼務されている。